

2024 年第 4 四半期および 2024 年通期決算

プレスリリース

パリ、2025 年 2 月 6 日

2024 年決算において当グループの目標をすべて上回る グループ当期純利益は 2023 年比 69%増の 42 億ユーロ

年間収益は 268 億ユーロと、2023 年比で 6.7%増加し、2024 年の目標である 5%以上の増加を上回る。特にフランス国内の純受取利息の力強い回復や、グローバルバンキング・インベスターソリューションズ部門の収益が 100 億ユーロを上回る優れた業績であったことが牽引

経費率は 69.0%と、2023 年比で横ばい。厳格な経費管理により、2024 年の目標である 71%未満を下回る

リスク費用は 26 ベースポイントと、2024 年の目標レンジの下限付近

収益率 (ROTE) は 6.9%と、2024 年に見込まれた 6%超の目標を上回る

2024 年末時点の普通株式等 Tier1 比率は 13.3%と、規制要件を約 310 ベースポイント上回る

2023 年比 75%増の株主還元

17 億 4,000 万ユーロの還元¹ (1 株当たり 2.18 ユーロ相当¹) を提案。内訳は以下のとおり。

- 1 株当たり 1.09 ユーロの現金配当を株主総会で提案予定
- 8 億 7,200 万ユーロ (1 株当たり 1.09 ユーロ相当¹) の自社株買い計画。当該計画を実施するため、欧州中央銀行 (ECB) による承認は取得済みであり、2025 年 2 月 10 日に開始予定
- 株主還元率を当期純利益の 50%へ引き上げ²

2025 年の財務目標、強固な自己資本、規律ある遂行

2024 年比で 3%超³の収益の伸び

2024 年比で 1%超³の経費の削減

2025 年の経費率を 66%未満に改善

2025 年のリスク費用は 25~30 ベースポイント

2025 年の ROTE を 8%超に引き上げ

2025 年を通して普通株式等 Tier1 比率は 13%超 (バーゼル 4 適用後)

資本の軌道に対して、十分な普通株式等 Tier1 比率であることから、以下のとおり還元方針の改善を提案。

- 全体の株主還元率を当期純利益の 50%とする²
- 現金配当と自社株買いのバランスのとれた配分

¹ 2024 年 12 月 31 日現在の流通株式数 (自己株式を除く。) に基づき、株主総会による通常の承認を条件とする。

² グループ報告当期純利益 (超劣後債および永久劣後債に係る利息の控除後、普通株式等 Tier1 比率に影響を及ぼさない非現金項目について修正再表示後)

³ 売却資産を除く。

当グループの最高経営責任者であるスラヴォミール・クルパは次のように述べています。

「2024年に当グループの業績は大幅に向上しました。すべての目標を達成し、計画を上回る成果を挙げることができました。強固な資本の構築、堅固かつ持続可能な事業成長、厳格な経費およびリスクの管理、そして統合プロジェクトの大きな進展により、1株当たり利益は倍増しました。こうした力強い背景を踏まえて、2024年の還元および当グループの還元方針の両方を改善いたします。ソシエテ・ジェネラルのチームの皆さんが、日々お客様と当行のために献身的に取り組んでいることに心から感謝いたします。

2025年も、引き続き当グループの戦略の着実な遂行に注力し、さらなる業績の向上に努めてまいります。」

1. グループ連結決算

(単位：百万ユーロ)	2024年	2023年	増減		2024年	2023年	増減	
	第4四半期	第4四半期						
業務粗利益	6,621	5,957	+11.1%	+12.5%*	26,788	25,104	+6.7%	+5.7%*
営業費用	(4,595)	(4,666)	-1.5%	-0.7%*	(18,472)	(18,524)	-0.3%	-1.6%*
営業総利益	2,026	1,291	+57.0%	+61.3%*	8,316	6,580	+26.4%	+26.6%*
純リスク費用	(338)	(361)	-6.4%	-4.9%*	(1,530)	(1,025)	+49.3%	+48.6%*
営業利益	1,688	930	+81.6%	+87.4%*	6,786	5,555	+22.2%	+22.5%*
その他の資産からの純損益	(11)	(21)	+48.9%	+45.2%*	(77)	(113)	+31.4%	+26.3%*
法人所得税	(413)	(302)	+36.6%	+40.5%*	(1,601)	(1,679)	-4.7%	-4.9%*
当期純利益	1,273	612	x 2.1	x 2.1*	5,129	3,449	+48.7%	+49.6%*
うち非支配持分損益	233	183	+27.0%	+33.6%*	929	957	-3.0%	-9.3%*
グループ当期純利益	1,041	429	x 2.4	x 2.5*	4,200	2,492	+68.6%	+73.2%*
ROE	5.8%	1.5%			6.1%	3.1%		
ROTE	6.6%	1.7%			6.9%	4.2%		
経費率	69.4%	78.3%			69.0%	73.8%		

本書中においてアスタリスク*は、連結範囲の変更および為替レートの変動による影響を除いた数値を示す。

2025年2月5日に開催されたロレンツォ・ビーニ・スマギを議長とするソシエテ・ジェネラルの取締役会において、ソシエテ・ジェネラル・グループの2024年第4四半期決算が精査され、2024年の財務諸表が承認された。

業務粗利益

業務粗利益は、2023年第4四半期比11.1%増の66億ユーロとなった。

フランス国内リテールバンキング・プライベートバンキング・保険部門の2024年第4四半期の収益は、総額23億ユーロと2023年第4四半期比で15.5%増加した。純受取利息は、直近の予想どおり2024年第4四半期に増加し、2023年第4四半期比36%増となった。プライベートバンキング事業および保険事業の2024年第4四半期末の運用資産残高はそれぞれ2023年第4四半期末比で7%増加した。最後に、ブルソバンクは2024年第4四半期に460,000超の新規顧客を獲得し、2024年12月末時点の顧客基盤は720万と、2024年12月末の目標であった700万を上回り、力強い成長が確認された。また、2024年において、ブルソバンクは2年連続でグループ当期純利益にプラスに寄与した。

グローバルバンキング・インベスターソリューションズ部門の収益は、2023年第4四半期比で12.4%増加した。2024年第4四半期の収益は、すべての事業が好調だったことから、25億ユーロとなった。グローバルマーケット事業は2024年第4四半期に2023年第4四半期比で9.8%成長した。エクイティ事業の収益は10%増となり、第4四半期としては過去最高となった。これらは、特に米国大統領選挙の結果が出た後の良好な市況により牽引された。債券・為替事業については、全資産クラスにおけるファイナンス・仲介業務の堅固な商業活動により、9%増となった。ファイナンス・アドバイザー事業では、ストラクチャー・ドファイナンスにおいて堅調な商業的機運がみられ、またM&Aおよびアドバイザーの業績が引き続き回復した。同様に、グローバルトランザクション・ペイメントサービス事業の収益は、全事業部門、特にコルレス銀行業務における持続的な商業的発展に牽引され、2023年第4四半期比26%増となった。

モビリティ・国際リテールバンキング・金融サービス部門の収益は、主にAyvensにおけるマージンの拡大を受け、2023年第4四半期比2.0%増となった。国際リテールバンキング事業の収益は、アフリカ（モロッコ、チャド、コンゴ、マダガスカル）の資産売却完了に伴う連結範囲の変更の影響を受け、2023年第4

四半期比 3.6%減の 10 億ユーロとなった。連結範囲の変更および為替レートの変動による影響の控除後では、収益は 3.4%増となった。モビリティ事業および金融サービス事業の収益は、主に 2023 年第 4 四半期の非経常項目や Ayvens におけるマージンの改善を受け、2023 年第 4 四半期比 8.3%増となった。

コーポレートセンターの 2024 年第 4 四半期の収益は 1 億 5,900 万ユーロのマイナスとなった。

2024 年通期の業務粗利益は 2023 年比 6.7%増となった。

営業費用

2024 年第 4 四半期の営業費用は、2023 年第 4 四半期比 1.5%減の 45 億 9,500 万ユーロとなった。

これには、バーンスタインのキャッシュ・エクイティ事業の統合に関する約 4,600 万ユーロの連結範囲の変更および 2,600 万ユーロの改革費用の削減による影響が含まれている。これらの項目の控除後では、主に全事業部門で実施された経費削減策の影響により、2024 年第 4 四半期の営業費用は 2023 年第 4 四半期比で約 2%の減少となった。

2024 年第 4 四半期の経費率は 69.4%と、2023 年第 4 四半期の 78.3%から大幅に低下した。

2024 年通期の営業費用は、厳格な経費管理により、2023 年比 0.3%減とほぼ横ばいであった。経費率は 69.0%（2023 年は 73.8%）と、2024 年の目標である 71%を下回る水準であった。

リスク費用

2024 年第 4 四半期のリスク費用は 23 ベースポイント（3 億 3,800 万ユーロ）へ低下した。これには、不良債権引当金 3 億 8,600 万ユーロ（約 26 ベースポイント）および正常債権引当金 4,800 万ユーロの戻入れが含まれる。

2024 年 12 月末時点の当グループの正常債権引当金は 31 億 1,900 万ユーロと、2024 年 9 月 30 日時点から横ばいとなった。2023 年 12 月 31 日時点と比べて 4 億 5,300 万ユーロの減少となったのは、主に IFRS 第 5 号を適用したことによるものである。

2024 年 12 月 31 日時点の総不良債権比率は 2.81%^{1,2}と、2024 年 9 月末時点（2.95%）から大幅に低下した。当グループの不良債権総額の純カバレッジ比率（保証および担保を考慮後のもの）は 2024 年 12 月 31 日時点で 81%³であった。

その他資産からの純損益

当グループは、2024 年第 4 四半期に、主にモロッコおよびマダガスカルにおける事業の売却等、完了した資産売却に伴う会計上の影響により、1,100 万ユーロの純損失を計上した。

グループ当期純利益

2024 年第 4 四半期のグループ当期純利益は 10 億 4,100 万ユーロ、有形自己資本利益率（ROTE）は 6.6%であった。

¹ 比率は 2019 年 7 月 16 日に公表された欧州銀行監督機構（EBA）の手法に従い算出されている。

² IFRS 第 5 号に従って現在売却過程にある企業の貸出残高を除いた比率（特にソシエテ・ジェネラル・エクイップメント・ファイナンス、ソシエテ・ジェネラル・マロケヌ・ドゥ・バンクおよびラ・マロケヌ・ヴィ）

³ S3 引当金および保証・担保の不良債権残高の総額に対する比率

2024年通期のグループ当期純利益は42億ユーロ、有形自己資本利益率（ROTE）は6.9%であった。

株主還元

取締役会は、1株当たり2.18ユーロ（17億4,000万ユーロ相当、うち自社株買いは8億7,200万ユーロ）を株主に還元することを目的とする2024年事業年度の株主還元方針を承認した¹。2025年5月20日の株主総会において、1株当たり1.09ユーロの現金配当が提案される予定である。配当落ちは2025年5月26日、配当支払日は2025年5月28日となる予定である。

¹ 自社株買い計画およびそれに伴う減資は、2025年2月5日の取締役会で採択された原則である、次期グループ従業員株式保有計画の一環として実施される将来の増資による希薄化の影響を完全に相殺することも目的としており、またこれを優先するものである。

2. 確立された ESG 戦略のさらなる進展

2024年、ソシエテ・ジェネラルは、特に環境移行への貢献に関して、ESG ロードマップの実施を加速させた。

- 当グループは現在、企業のファイナンスド・エミッションの約70%¹をカバーし、炭素集約型セクターに対して10の整合性目標を設定している。また、2019年末以降、石油・ガス事業における上流部門に係るエクスポージャーを50%超削減した²。
- 2024年第2四半期には、計画を前倒しして、2022年から2025年までのサステナブルファイナンスの目標総額3,000億ユーロを達成した。ポートフォリオ調整の一環として実施された取組みの補完として、2024年から2030年までの新たな目標総額5,000億ユーロが発表された。これにより、脱炭素化活動に向けた資金の流れを一層促進することになる。

当グループは、新たなプレイヤーや新技術を支援することで、持続可能な未来に向けた取組みの範囲を拡大している。

- キャピタル・マーケット・デーで発表した総額10億ユーロのエネルギー移行投資が、運用段階に移行。
- 2024年第4四半期には、欧州の風力発電サプライチェーンに最大80億ユーロの資金を提供するため、欧州投資銀行（EIB）との新たなパートナーシップを締結。

同時に、ESG リスク管理の強化を継続し、環境リスクの重要性に関する先見的な評価の向上や、環境・社会・ガバナンスリスクのリスクフレームワークへの統合を促進した。

最後に、当グループは責任ある雇用者としての取組みも推進している。2024年末時点で、「グループ・リーダーズ・サークル」（上位250）の女性幹部比率は約30%³、外国人比率も約30%となった。キャピタル・マーケット・デーで発表したとおり、男女間の賃金格差を是正するための1億ユーロの資金枠が2023年に設定された。

¹ 法人顧客のファイナンスド・エミッションにおけるスコープ1および2

² 目標：2030年までに上流部門に係るエクスポージャーを2019年比80%削減、2025年には中間目標として2019年比50%削減

³ 2026年までに女性幹部比率を少なくとも35%にすることを目標としている。

3. 当グループの財務構造

2024年12月31日時点の当グループの**普通株式等 Tier1** 比率は 13.3%¹で、規制要件を約 310 ベースポイント上回った。同様に、2024年12月末時点の流動性カバレッジ比率（LCR）は 156%（2024年第4四半期の平均では 145%）となり、規制要件を大幅に上回った。また、2024年12月末時点の安定調達比率（NSFR）は 117%であった。

すべての流動性比率および自己資本比率は規制要件を大幅に上回っている。

	2024年12月31日	2023年12月31日	規制要件
CET1⁽¹⁾	13.3%	13.1%	10.24%
CET1（全面適用）	13.3%	13.1%	10.24%
Tier 1 比率⁽¹⁾	16.1%	15.6%	12.17%
総自己資本 ⁽¹⁾	18.9%	18.2%	14.73%
レバレッジ比率 ⁽¹⁾	4.34%	4.25%	3.60%
TLAC（RWA 比）⁽¹⁾	29.7%	31.9%	22.31%
TLAC（レバレッジ比） ⁽¹⁾	8.0%	8.7%	6.75%
MREL（RWA 比）⁽¹⁾	34.2%	33.7%	27.58%
MREL（レバレッジ比） ⁽¹⁾	9.2%	9.2%	6.23%
期末 LCR	156%	160%	>100%
期中平均 LCR	145%	155%	>100%
NSFR	117%	119%	>100%

（単位：十億ユーロ）	2024年12月31日	2023年12月31日
連結貸借対照表総額	1,574	1,554
株主資本（IFRS）、グループ持分	70	66
リスクアセット	390	389
うち信用リスク	327	326
調達貸借対照表総額	952	970
顧客貸出金	463	497
顧客預金	614	618

2024年12月31日現在、2024年の資金調達計画に基づき、親会社は総額 432 億ユーロの中長期債を発行している。子会社は 47 億ユーロを発行している。当グループ全体では、総額 479 億ユーロを発行している。

2025年1月10日現在、親会社は 2025年のバニラ債による資金調達プログラムの 47%を完了している。

当グループは 4 社の格付け機関から格付けを付与されている。各社からの格付けは、（i）フィッチ・レーティングスからは長期格付け「A-」（安定的）、上位優先債格付け「A」および短期格付け「F1」、（ii）ムーディーズからは長期格付け（上位優先債）「A1」（ネガティブ）および短期格付け「P-1」、（iii）R&I からは長期格付け（上位優先債）「A」（安定的）、（iv）S&P グローバル・レーティングからは長期格付け（上位優先債）「A」（安定的）および短期格付け「A-1」となっている。

¹ IFRS 第 9 号の段階的適用による影響を含む。

4. フランス国内リテールバンキング・プライベートバンキング・保険部門

(単位：百万ユーロ)	2024 年	2023 年	増減	2024 年	2023 年	増減
	第 4 四半期	第 4 四半期		2024 年	2023 年	
業務粗利益	2,267	1,963	+15.5%	8,657	8,053	+7.5%
うち純受取利息	1,091	801	+36.2%	3,868	3,199	+20.9%
うち手数料収入	1,028	948	+8.5%	4,108	3,975	+3.3%
営業費用	(1,672)	(1,683)	-0.7%	(6,634)	(6,756)	-1.8%
営業総利益	596	280	x 2.1	2,024	1,297	+56.0%
純リスク費用	(115)	(163)	-29.6%	(712)	(505)	+41.0%
営業利益	481	118	x 4.1	1,312	792	+65.6%
その他の資産からの純損益	(2)	5	n/s	6	9	-35.1%
グループ当期純利益	360	90	x 4.0	991	596	+66.2%
RONE	9.1%	2.3%		6.3%	3.9%	
経費率	73.7%	85.7%		76.6%	83.9%	

商業活動

SG ネットワーク、プライベートバンキング、保険

2024 年第 4 四半期の SG ネットワークの平均預金残高は、投資商品および貯蓄型生命保険へのインフローが大幅に変化したことを背景に、2023 年第 4 四半期比 1%減の 2,320 億ユーロとなった。

SG ネットワークの平均貸出残高は、2023 年第 4 四半期比 4%減の 1,940 億ユーロとなったが、PGE（政府保証融資）を除くと 2.5%減であった。法人顧客および専門家顧客向けの貸出残高は、政府保証の PGE 融資を除くと 2024 年第 3 四半期比で増加し、個人顧客への貸出金は商業的モメンタムの高まりを見せた。

2024 年第 4 四半期の平均預貸率は 83.6%と、2023 年第 4 四半期比で 2.6 パーセントポイント低下した。

プライベートバンキング事業では、2024 年第 4 四半期の運用資産（AuM）¹が 1,540 億ユーロの過去最高水準を維持し、2023 年第 4 四半期比で 7%増加した。2024 年の純資産のインフローは 63 億ユーロとなり、2024 年の年間純資産拡大ペース（正味新規資金を AuM で除したものは 4%増であった。当四半期の業務粗利益は 3 億 4,800 万ユーロと、2023 年第 4 四半期比で 2%減少した。2024 年の業務粗利益は 14 億 6,900 万ユーロで、2023 年から変わらなかった。

フランス国内外の業務を含む保険事業は極めて好調な実績を上げた。生命保険事業の残高は 2023 年第 4 四半期比 7%の大幅増となり、2024 年 12 月末現在で過去最高の 1,460 億ユーロに達した。ユニットリンク商品のシェアは 40%と高水準を維持した。2024 年第 4 四半期の貯蓄型生命保険のインフロー総額は 34 億ユーロであり、2024 年通期では 2023 年比 42%増の 183 億ユーロとなった。

個人保障保険および損害保険のリスク・プレミアムは、2023 年第 4 四半期比で 3%増加した（連結範囲の変更による影響を除くと 5%増）。

ブルソバンク

ブルソバンクの成長モメンタムは続いており、2024 年第 4 四半期に 46 万超の新規顧客を獲得した。ブルソバンクの顧客数は 2024 年 12 月に概ね 720 万に達し、2024 年の目標を上回った。

¹ フランス国内外の運用資産（スイスおよび英国を含む。）

特に包括的な銀行サービスと「デジタルリーダー」¹としての定評により、同行の解約率は低く（2024年は約3%）、2023年と比較してもさらに低下している。

ブルソバンクは、2024年も引き続き利益成長軌道に乗っており、12ヶ月間で130万超の新規顧客を獲得して顧客基盤を拡大させつつ（2023年比22.4%増）、1顧客当たりのコストは2023年比で17.0%減少した。

2024年第4四半期の貸出残高は、2023年第4四半期比5.4%増の160億ユーロとなった。

預金および金融貯蓄を含む平均貯蓄残高は、2023年第4四半期比15.5%増の640億ユーロであった。2024年第4四半期の預金残高は、有利子貯蓄に牽引されて高い伸びを示し、2023年第4四半期比15.4%増の総額390億ユーロとなった。2024年第4四半期の生命保険の平均残高は130億ユーロとなり、2023年第4四半期比で10.2%増加した（うちユニットリンク商品のシェアは48%と、2023年第4四半期比で3.8パーセントポイント上昇）。当事業は、当四半期において引き続き好調なインフロー総額を記録した（2023年第4四半期比50.4%増、ユニットリンク商品のシェアは65%）。

ブルソバンクは2024年に、2年連続でグループ当期純利益にプラスの寄与をもたらした。

ブルソバンクは、2025年末までに顧客数を800万超とすることを目指している。

業務粗利益

2024年第4四半期の収益は22億6,700万ユーロで（PEL/CEL引当金の影響を含む。）、2023年第4四半期比15%増、2024年第3四半期比1%増となった。純受取利息は、2023年第4四半期比で36%増加し、2024年第3四半期比では3%増加した。手数料収入は2023年第4四半期比で9%増加した。

2024年通期の収益は86億5,700万ユーロと、2023年比で8%増加した（PEL/CEL引当金の影響を含む。）。純受取利息は、2023年比で21%増加した。手数料収入は2023年比で3%増加した。

営業費用

2024年第4四半期の営業費用は16億7,200万ユーロとなり、2023年第4四半期比で1%減少した。2024年第4四半期の経費率は73.7%で、2023年第4四半期比で12パーセントポイント改善した。

2024年通期の営業費用は総額66億3,400万ユーロと、2023年比で2%減少した。経費率は76.6%で、2023年と比べて7.3パーセントポイント改善した。

リスク費用

2024年第4四半期のリスク費用は1億1,500万ユーロ、すなわち20ベースポイントとなり、2024年第3四半期（30ベースポイント）から減少した。

2024年通期のリスク費用は総額7億1,200万ユーロ、すなわち30ベースポイントであった。

グループ当期純利益

2024年第4四半期のグループ当期純利益は総額3億6,000万ユーロであった。2024年第4四半期のRONEは9.1%であった。

2024年通期のグループ当期純利益は総額9億9,100万ユーロであった。2024年のRONEは6.3%であった。

¹ 2024年10月のシア・パートナーズ国際モバイルバンキング・ベンチマークによると、同行の銀行アプリはフランスで第1位、世界で第2位

5. グローバルバンキング・インベスターソリューションズ部門

(単位：百万ユーロ)	2024年	2023年	増減		2024年	2023年	増減	
	第4四半期	第4四半期						
業務粗利益	2,457	2,185	+12.4%	+11.6%*	10,122	9,642	+5.0%	+4.8%*
営業費用	(1,644)	(1,601)	+2.7%	+2.0%*	(6,542)	(6,788)	-3.6%	-3.7%*
営業総利益	812	584	+39.0%	+37.9%*	3,580	2,854	+25.4%	+25.0%*
純リスク費用	(97)	(38)	x 2.5	x 2.5*	(126)	(30)	x 4.2	x 4.3*
営業利益	715	546	+31.0%	+30.1%*	3,455	2,824	+22.3%	+21.9%*
グループ当期純利益	627	467	+34.4%	+33.0%*	2,788	2,280	+22.2%	+21.7%*
RONE	16.6%	12.2%			18.4%	14.8%		
経費率	66.9%	73.3%			64.6%	70.4%		

業務粗利益

グローバルバンキング・インベスターソリューションズ部門は2024年第4四半期に好業績を達成し、収益は2023年第4四半期比12.4%増の24億5,700万ユーロとなった。

2024年通期の収益は、全事業部門の力強いモメンタムを背景に、2023年事業年度を5.0%上回り、過去最高水準¹となる101億2,200万ユーロに拡大した。

2024年第4四半期のグローバルマーケット・インベスターサービス事業の収益は2023年第4四半期比9.8%増と大きく拡大し、14億9,300万ユーロとなった。2024年通期の収益は総額65億5,700万ユーロとなり、2023年事業年度比で4.5%の増加となった。この伸び率の達成は全事業を通じて底堅い業績が計上された結果である。

グローバルマーケット事業の収益は2024年第4四半期と通期ともに過去最高¹を記録し、引き続き事業に有利な市場環境の中、それぞれ2023年第4四半期比9.5%増の13億3,200万ユーロ、2023年比5.6%増の58億8,400万ユーロとなった。

エクイティ事業も好業績を達成し、通期と2024年第4四半期ともに過去最高を記録した。2024年第4四半期の収益は8億3,100万ユーロに上り、2023年第4四半期比10.0%増となる堅調な伸びを示し、特にフロー業務、上場商品、ファイナンス業務については米国の選挙後の力強い業容拡大の動きが寄与した。2024年通期の収益は大幅に増加して、2023年比12.2%増の35億6,900万ユーロとなった。

2024年第4四半期の債券・為替事業は、すべてのプロダクトで力強い業績の計上があり、収益は8.8%増の5億100万ユーロとなった。米国の選挙が金利と為替に影響を及ぼし、企業と金融機関の顧客との取引拡大につながった。加えて、欧州における金利と為替事業も好調となり、アメリカにおける担保付き融資の機会も堅調となった。2024年通期の収益はわずかに減少し、3.2%減の23億1,500万ユーロであった。

証券サービス事業の収益は大幅に拡大し、2023年第4四半期比12.4%増の1億6,200万ユーロとなったが、資本参加の影響を除くと4.8%増であった。受取手数料の増収傾向と、特にフランスとイタリアにおけるファンド販売事業の力強いモメンタムが当事業を引き続き牽引した。2024年通期の収益は4.0%減となったが、資本参加の影響を除くと2.8%増であった。カストディ資産および管理資産はそれぞれ4兆9,210億ユーロおよび6,230億ユーロであった。

ファイナンス・アドバイザー事業の収益は2023年第4四半期比16.7%増の9億6,400万ユーロとなった。2024年通期の収益は2023年比5.8%増の総額35億6,600万ユーロであった。

¹ 世界金融危機（GFC）後の規制制度下における比較可能なビジネスモデルにおいて

グローバルバンキング・アドバイザー事業は堅調に拡大した。ファンドファイナンスとストラクチャードファイナンスにおいて融資の実行と投資家への販売の数量が力強く推移し、手数料を2023年第4四半期比2桁増に押し上げたため、収益は2023年第4四半期比で13.7%の増加となった。2024年第4四半期もM&A業務とアドバイザー業務の回復が続いており、収益は力強く拡大した。収益では、当四半期は過去最高の2022年第4四半期に迫り、過去2番目に高い水準の四半期である。2024年通期の収益は2023年比3.2%増となった。

グローバルトランザクション・ペイメントサービス事業は2023年第4四半期比で再び好業績を達成した。26.1%増に上る収益の大幅な拡大は、全事業活動における力強い商業的モメンタムとコルレス銀行の堅調な業績により高水準となった手数料収入の寄与によるものである。2024年通期の収益は13.9%増と堅調に伸びた。これは、通期と第4四半期において過去最高である。

営業費用

2024年第4四半期の営業費用は16億4,400万ユーロとなり、これには約3,200万ユーロの改革費用が含まれる。営業費用は2023年第4四半期比2.7%増である。2024年第4四半期の経費率は66.9%であった。

2024年通期の営業費用は2023年比3.6%減となり、経費率は64.6%であった。

リスク費用

2024年第4四半期のリスク費用は9,700万ユーロすなわち24ベースポイント（2023年第4四半期は9ベースポイント）であった。

2024年通期のリスク費用は1億2,600万ユーロすなわち8ベースポイントであった。

グループ当期純利益

グループ当期純利益は大幅な増加となり、2023年第4半期比34.4%増の6億2,700万ユーロに拡大した。2024年通期のグループ当期純利益は22.2%増の27億8,800万ユーロと大幅に拡大した。

グローバルバンキング・インベスターソリューションズ部門は、2024年第4四半期は16.6%、2024年通期は18.4%と極めて高いRONEを計上した。

6. モビリティ・国際リテールバンキング・金融サービス部門

(単位：百万ユーロ)	2024年		2023年		2024年		2023年	
	第4四半期	第4四半期	増減	増減	第4四半期	第4四半期	増減	増減
業務粗利益	2,056	2,016	+2.0%	+6.7%*	8,458	8,507	-0.6%	-3.8%*
営業費用	(1,240)	(1,281)	-3.2%	+0.8%*	(5,072)	(4,760)	+6.6%	+1.7%*
営業総利益	816	734	+11.1%	+17.0%*	3,386	3,747	-9.6%	-10.9%*
純リスク費用	(133)	(137)	-2.5%	+2.2%*	(705)	(486)	+45.1%	+43.5%*
営業利益	682	598	+14.2%	+20.4%*	2,681	3,261	-17.8%	-19.1%*
その他の資産からの純損益	(2)	(12)	+86.1%	+84.3%*	96	(11)	n/s	n/s
非支配持分損益	203	152	+33.1%	+39.6%*	826	826	-0.1%	-7.1%*
グループ当期純利益	314	284	+10.5%	+16.1%*	1,270	1,609	-21.1%	-20.0%*
RONE	12.0%	11.0%			12.2%	16.6%		
経費率	60.3%	63.6%			60.0%	56.0%		

商業活動

国際リテールバンキング事業

国際リテールバンキング事業¹は、2024年第4四半期も好調を維持し、貸出残高は590億ユーロと2023年第4四半期比で3.4%増加*し、預金残高は740億ユーロと2023年第4四半期比で3.9%増加*した。

欧州の事業は、両事業体とも個人顧客および法人顧客のセグメントで良好な成績を維持している。2024年第4四半期の貸出残高は430億ユーロとなり、ルーマニア、および特にチェコ共和国の住宅ローンのセグメント全体で2023年第4四半期と比較して4.9%の増加*となった。2024年第4四半期の預金残高は総額550億ユーロで、主にルーマニアの貢献により2023年第4四半期比で3.8%増加*した。

アフリカ、地中海沿岸地域およびフランス海外領域では、2024年第4四半期の貸出残高はリテール事業の好調を背景に160億ユーロと、2023年第4四半期比で横ばい*となった。2024年第4四半期の預金残高は200億ユーロとなり、主にリテールの要求払い預金に牽引され、2023年第4四半期比で4.0%増加*した。

モビリティ・金融サービス事業

全体としてモビリティ・金融サービス事業は良好な営業実績を維持した。

Ayvensの収益資産は2024年12月末現在総額536億ユーロと、2023年12月末比で2.9%増加した。

消費者金融事業は、2024年第4四半期の残高が2023年第4四半期比4.0%減と依然減少し、230億ユーロとなった。

設備ファイナンス事業の残高は2024年第4四半期に150億ユーロと、2023年第4四半期比で1.4%の小幅減少となった。

業務粗利益

2024年第4四半期のモビリティ・国際リテールバンキング・金融サービス部門の収益は、2023年第4四半期比2.0%増の20億5,600万ユーロであった。

2024年通期の収益は、2023年比で横ばいの84億5,800万ユーロとなった。

¹ IFRS第5号準拠の報告対象の事業体を含み、2024年12月にモロッコおよびマダガスカルで売却された事業体を除く。

国際リテールバンキング事業の収益は 10 億 2,900 万ユーロと、2023 年第 4 四半期比で 3.4%増加*した。2024 年通期の収益は 41 億 6,100 万ユーロとなり、2023 年比で 3.8%増加*した。

欧州の収益は 2024 年第 4 四半期に 5 億 3,900 万ユーロと、チェコ共和国の KB およびルーマニアの BRD 双方の純受取利息が 3.5%増加*したことにより、2023 年第 4 四半期比で 6.4%増加*した。手数料収入は当四半期、チェコ共和国で大幅に増加し、2023 年第 4 四半期比で 29.5%増加*した。2024 年通期では、収益は 2023 年比で 2.8%改善*し、20 億 2,800 万ユーロであった。

アフリカ、地中海沿岸地域およびフランス海外領域は 2024 年第 4 四半期において、主に手数料の伸びを背景に 2023 年第 4 四半期比で横ばい*の 4 億 9,000 万ユーロと、持続的な収益水準を維持した。2024 年通期の収益は、2023 年比で 4.8%改善*し、21 億 3,300 万ユーロとなった。

全体としてモビリティ・金融サービス事業の収益は、2023 年第 4 四半期比 8.3%増の 10 億 2,600 万ユーロであった。2024 年通期の収益は、2023 年比で引き続き横ばいの 42 億 9,800 万ユーロとなった。

Ayvens の 2024 年第 4 四半期の業務粗利益は 7 億 700 万ユーロと、報告ベースでは 2023 年第 4 四半期比 16.3%の大幅増を記録し、非経常項目の修正再表示後では 2.0%の増加となった¹。マージン金額が 541 ベースポイントとなった結果、収益は 2023 年第 4 四半期比で 12%増加した¹。中古車販売市場は予想どおり徐々に正常化しており、1 台当たりの平均中古車販売実績（UCS）は、2024 年第 3 四半期の 1 台当たり 1,420 ユーロ¹、2023 年第 4 四半期の 1,706 ユーロ¹に対して当四半期は 1,267 ユーロ¹となった。2024 年通期の **Ayvens** の収益（30 億 1,500 万ユーロ）は、基礎的マージンの増加を背景に 2023 年比で 1.2%増加した。

消費者金融事業の収益は 2024 年第 4 四半期に 2 億 1,600 万ユーロと、2023 年第 4 四半期比では依然 4.2%の減少となった。収益は、新規契約のマージン改善を背景に 2024 年第 3 四半期以降安定化している。設備ファイナンス事業の収益は 2024 年第 4 四半期に 1 億 300 万ユーロと、2023 年第 4 四半期比で 9.3%減少した。2024 年通期の両事業の合計収益は 2023 年比で 4.0%減少した。

営業費用

2024 年第 4 四半期の営業費用は 12 億 4,000 万ユーロと縮小が続いた（2023 年第 4 四半期比 3.2%減、連結範囲の変更および為替レートの変動による影響を除くと横ばい*）。2024 年第 4 四半期の経費率は、2023 年第 4 四半期の 63.6%に対して 60.3%であった。

2024 年通期の営業費用は 50 億 7,200 万ユーロとなり、2023 年比で 6.6%増加した。これには約 2 億ユーロの改革費用が含まれている。

国際リテールバンキング部門の営業費用は、2023 年第 4 四半期比で 4.8%増加*したが（2024 年第 4 四半期において連結範囲の変更および為替レートの変動による影響を除くと 2.1%減の 5 億 7,700 万ユーロ）、これには依然、2024 年 1 月に施行されたルーマニアの新銀行税が含まれている。

モビリティ・金融サービス事業の営業費用は 2024 年第 4 四半期に 6 億 6,300 万ユーロに達し、2023 年第 4 四半期比で 4.2%減少した。

¹ マージンまたは中古車販売実績のいずれかの非経常項目を除く（主に 2023 年第 4 四半期の 1 億 700 万ユーロに対して 2024 年第 4 四半期は 0 百万ユーロの車両再評価、2023 年第 4 四半期の 1 億 9,100 万ユーロに対して 2024 年第 4 四半期の 8,700 万ユーロの想定減価償却費、2023 年第 4 四半期のマイナス 2,700 万ユーロに対して 2024 年第 4 四半期はマイナス 4,000 万ユーロのトルコのハイパーインフレ、および 2023 年第 4 四半期の 1 億 3,700 万ユーロ減に対して 2024 年第 4 四半期は 200 万ユーロ減のデリバティブ時価評価に関連したもの）。

リスク費用

2024 年第 4 四半期のリスク費用は 1 億 3,300 万ユーロ、すなわち 32 ベーシスポイントと、2024 年第 3 四半期（48 ベーシスポイント）を大幅に下回った。

2024 年通期のリスク費用は、2023 年の 32 ベーシスポイントに対して 42 ベーシスポイントの水準へと正常化した。

グループ当期純利益

2024 年第 4 四半期のグループ当期純利益は 3 億 1,400 万ユーロと、2023 年第 4 四半期比で 10.5%増加した。2024 年第 4 四半期の RONE は 12.0%であった。2024 年第 4 四半期の RONE は、国際リテールバンキング事業では 16.3%、モビリティ・金融サービス事業では 9.1%であった。

2024 年通期のグループ当期純利益は 12 億 7,000 万ユーロと、2023 年比で 21.1%減少した。2024 年通期の RONE は 12.2%であった。2024 年通期の RONE は、国際リテールバンキング事業が 16.4%、モビリティ・金融サービス事業は 9.4%となった。

7. コーポレートセンター

(単位：百万ユーロ)	2024 年	2023 年	増減		2024 年	2023 年	増減	
	第 4 四半期	第 4 四半期						
業務粗利益	(159)	(207)	+23.4%	+24.4%*	(450)	(1,098)	+59.0%	+59.6%*
営業費用	(39)	(101)	-61.8%	-61.8%*	(224)	(220)	+1.6%	+1.4%*
営業総利益	(197)	(308)	+36.0%	+36.5%*	(674)	(1,318)	+48.9%	+49.5%*
純リスク費用	7	(23)	n/s	n/s	12	(4)	n/s	n/s
その他の資産からの純損益	(7)	(15)	+51.3%	+51.3%*	(179)	(111)	-61.3%	-61.4%*
法人所得税	(37)	(45)	-17.9%	-16.6%*	81	(130)	n/s	n/s
グループ当期純利益	(261)	(412)	+36.7%	+37.0%*	(848)	(1,994)	+57.5%	+57.8%*

コーポレートセンターには以下の項目が含まれる。

- 当グループ本社の不動産管理
- 当グループの株式ポートフォリオ
- 当グループの財務担当部署
- 部門横断的なプロジェクトに関連する特定の費用および事業部門にリインボイスされない当グループの特定の費用

業務粗利益

2024 年第 4 四半期のコーポレートセンターの業務粗利益は、2023 年第 4 四半期のマイナス 2 億 700 万ユーロに対し、総額マイナス 1 億 5,900 万ユーロとなった。

2024 年通期のコーポレートセンターの業務粗利益は、2023 年のマイナス 10 億 9,800 万ユーロに対し、総額マイナス 4 億 5,000 万ユーロとなった。これは 2024 年第 3 四半期に計上した約 3 億ユーロの特別収入の受取りを含む¹。

営業費用

2024 年第 4 四半期の営業費用は、2023 年第 4 四半期の 1 億 100 万ユーロに対し、総額 3,900 万ユーロとなった。

2024 年通期の営業費用は、2023 年の 2 億 2,000 万ユーロに対し、総額 2 億 2,400 万ユーロとなった。

その他の資産からの純損失

主に IFRS 第 5 号の適用に従い、当グループは 2024 年第 4 四半期に進行中の資産売却が及ぼす様々な影響を計上した。

グループ当期純利益

2024 年第 4 四半期のコーポレートセンターのグループ当期純利益は、2023 年第 4 四半期のマイナス 4 億 1,200 万ユーロに対し、総額マイナス 2 億 6,100 万ユーロとなった。

2024 年通期のコーポレートセンターのグループ当期純利益は、2023 年のマイナス 19 億 9,400 万ユーロに対し、総額マイナス 8 億 4,800 万ユーロとなった。

2025 年からは、各事業の利益率の目標は、13%の資本配分に基づくものとなることに留意されたい。

¹ 2024 年第 2 四半期決算プレスリリースに記載のとおり。

8. 2024年および2025年の財務情報開示日程

2025年の財務情報開示日程

2025年4月30日	2025年第1四半期決算
2025年5月20日	2024年合同年次株主総会
2025年5月26日	配当落ち日
2025年5月28日	配当支払日
2025年7月31日	2025年第2四半期決算および2025年上半年期決算
2025年10月30日	2025年第3四半期決算および2025年1~9月期決算

代替的業績指標、特に中核事業部門の業務粗利益、営業費用、ベースポイント表示のリスク費用、**ROE**、**ROTE**、**RONE**、純資産および有形純資産の概念は、健全性比率を公表する際の原則とともに財務情報の基準となる事項に記載されています。

本書にはソシエテ・ジェネラル・グループの目標および戦略に関連する将来の見通しに関する記述が含まれていません。

これらの将来の見通しに関する記述は、一般事項および特別事項の両方、特に欧州連合により採択されたIFRS（国際財務報告基準）に準拠した会計原則および方法の適用、ならびに既存の健全性規制の適用を含む一連の前提に基づいています。

また、これらの将来の見通しに関する記述は、所与の競争および規制環境下における複数の経済前提に基づくシナリオに則して作成されました。当グループは以下を行うことができない場合があります。

- 当グループの事業に影響をもたらす可能性のあるすべてのリスク、不確実性またはその他の要因を予測すること、およびそれらの潜在的な影響を評価すること。
- リスクまたは複合リスクの発生により、実際の業績が本書および関連資料に記載されている業績の見通しからの程度大きく乖離するかを判断すること。

したがって、ソシエテ・ジェネラルはこれらの記述は合理的な仮定に基づいていると考えているものの、かかる将来の見通しに関する記述は、当行もしくは当行の経営陣が認知していない事項または現状で重大とみなされていない事項を含む、数々のリスクおよび不確実性に左右され、予想していた事象が発生する保証、または設定していた目標が実際に達成される保証はありません。実際の業績を、将来の見通しに関する記述で予想されている業績とは大きく異なるものにしうる重要な要因には、とりわけ、一般的経済活動の全体的な傾向、およびより具体的にはソシエテ・ジェネラルの市場における全体的な傾向、規制や健全性に関する変更、ならびにソシエテ・ジェネラルの戦略、経営および財政に関するイニシアチブの成功が含まれます。

ソシエテ・ジェネラルの財務業績に影響を及ぼす可能性のある潜在的リスクについてのより詳細な情報は、フランス金融市場庁（*Autorité des Marchés Financiers*）に提出された「Universal Registration Document（年次報告書）」（<https://investors.societegenerale.com/en>にて閲覧可能）の「Risk Factors」のセクションをご覧ください。

投資家の皆さまにおかれましては、かかる将来の見通しに関する記述に含まれる情報をご参考にされる際には、当グループの事業活動に影響をもたらす可能性のある不確実性要因およびリスク要因を考慮されるようお勧めします。適用ある法律で義務付けられている場合を除き、ソシエテ・ジェネラルは、将来の見通しに関する情報または記述の内容を更新または改正するいかなる義務も負いません。特に明記しない限り、事業ランキングおよび市場ポジションは内部資料によるものです。

9. 付属書類 1：財務情報

主力事業部門のグループ当期純利益

(単位：百万ユーロ)	2024年	2023年	増減	2024年	2023年	増減
	第4四半期	第4四半期		2024年	2023年	
フランス国内リテールバンキング・ プライベートバンキング・保険部門	360	90	x 4.0	991	596	+66.2%
グローバルバンキング・ インベスターソリューションズ部門	627	467	+34.4%	2,788	2,280	+22.2%
モビリティ・国際リテールバンキング・ 金融サービス部門	314	284	+10.5%	1,270	1,609	-21.1%
主力事業部門	1,301	841	+54.7%	5,048	4,486	+12.5%
コーポレートセンター	(261)	(412)	+36.7%	(848)	(1,994)	+57.5%
当グループ	1,041	429	x 2.4	4,200	2,492	+68.6%

主な特別項目

(単位：百万ユーロ)	2024年	2023年	2024年	2023年
	第4四半期	第4四半期	2024年	2023年
業務粗利益-特別項目合計	0	41	287	(199)
一時現存費用-コーポレートセンター	0	41	0	(199)
特別収入の受取り-コーポレートセンター	0	0	287	0
営業費用-一時費用および改革費用合計	(76)	(102)	(613)	(765)
改革費用	(76)	(102)	(613)	(730)
うちフランス国内リテールバンキング・ プライベートバンキング・保険部門	7	18	(132)	(312)
うちグローバルバンキング・インベスターソリューションズ部門	(32)	(64)	(236)	(167)
うちモビリティ・国際リテールバンキング・金融サービス部門	(51)	(56)	(199)	(251)
うちコーポレートセンター	0	0	(47)	0
一時費用	0	0	0	(35)
うちフランス国内リテールバンキング・ プライベートバンキング・保険部門	0	0	0	60
うちグローバルバンキング・インベスターソリューションズ部門	0	0	0	(95)
その他一時費用-合計	(7)	(115)	(74)	(820)
その他の資産からの純損益	(7)	(15)	(74)	(112)
うちモビリティ・国際リテールバンキング・金融サービス部門	0	0	86	0
うちコーポレートセンター	(7)	(15)	(160)	(112)
のれんの減損-コーポレートセンター	0	0	0	(338)
繰延税金資産準備金-コーポレートセンター	0	(100)	0	(370)

連結貸借対照表

(単位：百万ユーロ)	2024年	2023年
	12月31日	12月31日
現金および中央銀行預け金	201,680	223,048
純損益を通じて公正価値で測定する金融資産	526,048	495,882
ヘッジ目的デリバティブ	9,233	10,585
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産	96,024	90,894
償却原価で測定する有価証券	32,655	28,147
償却原価で測定する銀行預け金	84,051	77,879
償却原価で測定する顧客貸出金	454,622	485,449
金利リスクをヘッジしたポートフォリオの再評価差額	(292)	(433)
保険契約資産および再保険契約資産	615	459
税金資産	4,687	4,717
その他の資産	70,903	69,765
売却目的保有非流動資産	26,426	1,763
持分法適用投資	398	227
有形および無形固定資産	61,409	60,714
のれん	5,086	4,949
合計	1,573,545	1,554,045

(単位：百万ユーロ)	2024年	2023年
	12月31日	12月31日
中央銀行預り金	11,364	9,718
純損益を通じて公正価値で測定する金融負債	396,614	375,584
ヘッジ目的デリバティブ	15,750	18,708
発行債券	162,200	160,506
銀行預り金	99,744	117,847
顧客預金	531,675	541,677
金利リスクをヘッジしたポートフォリオの再評価差額	(5,277)	(5,857)
税金負債	2,237	2,402
その他の負債	90,786	93,658
売却目的保有非流動負債	17,079	1,703
保険契約負債および再保険契約負債	150,691	141,723
引当金	4,085	4,235
劣後債務	17,009	15,894
負債合計	1,493,957	1,477,798
株主資本	-	-
株主資本、グループ持分	-	-
発行済普通株式および資本準備金	21,281	21,186
その他の資本性金融商品	9,873	8,924
利益剰余金	33,863	32,891
純利益	4,200	2,493
小計	69,217	65,494
未実現・繰延キャピタルゲインおよびキャピタルロス	1,039	481
資本、グループ持分小計	70,256	65,975
非支配持分損益	9,332	10,272

株主資本合計	79,588	76,247
合計	1,573,545	1,554,045

10. 付属書類 2：財務情報の基準となる事項

1-2024 年第 4 四半期および 2024 年通期に関する財務情報は、2025 年 2 月 5 日開催の取締役会において精査されており、当該日付において適用され、欧州連合が採択している国際財務報告基準（IFRS）に準拠した方法により作成されている。2024 年度連結財務諸表については、法定監査人による監査手続が現在行われている。

2-業務粗利益

中核事業部門の業務粗利益はソシエテ・ジェネラルの 2024 年度「Universal Registration Document（年次報告書）」の 42 ページに定義されている。「収益」および「業務粗利益」は同義語として使用されている。これらは、各事業に対する標準的資本配分を考慮した上での、各中核事業部門の業務粗利益の正規化した数値を提供している。

3-営業費用

営業費用は、2023 年 12 月 31 日付の当グループの連結財務諸表の注 5 に記載されている「営業費用」を指す。また、営業費用について言及する際、「費用」という用語も使われている。経費率はソシエテ・ジェネラルの 2024 年度「Universal Registration Document（年次報告書）」の 42 ページに定義されている。

4- ベーシスポイント表示のリスク費用、不良債権残高のカバレッジ比率

リスク費用はソシエテ・ジェネラルの 2024 年度「Universal Registration Document（年次報告書）」の 43 ページおよび 770 ページに定義されている。当該指標により、各中核事業部門のリスク水準を、貸借対照表上のローンコミットメント（オペレーティングリースを含む。）のパーセンテージとして評価することが可能となる。

(単位：百万ユーロ)		2024 年	2023 年	2024 年	2023 年
		第 4 四半期	第 4 四半期	2024 年	2023 年
フランス国内リテールバンキング・プライベートバンキング・保険部門	純リスク費用	115	163	712	505
	貸出残高総額	233,298	240,533	235,539	246,701
	ベーシスポイント表示のリスク費用	20	27	30	20
グローバルバンキング・インベスターソリューションズ部門	純リスク費用	97	38	126	30
	貸出残高総額	160,551	168,799	162,749	169,823
	ベーシスポイント表示のリスク費用	24	9	8	2
モビリティ・国際リテールバンキング・金融サービス部門	純リスク費用	133	137	705	486
	貸出残高総額	167,911	164,965	167,738	150,161
	ベーシスポイント表示のリスク費用	32	33	42	32
コーポレートセンター	純リスク費用	(7)	23	(12)	4
	貸出残高総額	25,730	23,075	24,700	20,291
	ベーシスポイント表示のリスク費用	(11)	40	(5)	2
ソシエテ・ジェネラル・グループ	純リスク費用	338	361	1,530	1,025
	貸出残高総額	587,490	597,371	590,725	586,977
	ベーシスポイント表示のリスク費用	23	24	26	17

不良債権残高総額のカバレッジ比率は、規則上、デフォルトに陥っていると特定された残高総額に対する信用リスクに関して認識されている引当金の比率として算出されており、提供された保証は考慮されていない。当該カバレッジ比率により、デフォルトに陥っている（不良債権の）残高と関連している最大残存リスクを測定することができる。

5 - ROE、ROTE、RONE

ROE（自己資本利益率）およびROTE（有形自己資本利益率）の概念ならびにこれらの算出方法は、ソシエテ・ジェネラルの2024年度「Universal Registration Document（年次報告書）」の43ページおよび44ページに記載されている。当該数値により、ソシエテ・ジェネラルの自己資本利益率および有形自己資本利益率を評価することが可能となる。

RONE（基準自己資本利益率）は、ソシエテ・ジェネラルの2024年度「Universal Registration Document（年次報告書）」の44ページに記載されている原則に基づき、当グループの事業部門に配分される平均基準資本の利益率を特定する。

比率の分子として使用されるグループ当期純利益は、「超劣後債および永久劣後債の保有者への支払利息および未払利息、発行時額面超過額償却額」の調整後の会計上のグループ当期純利益である。ROTE に関しては、利益はのれんの減損を修正再表示している。

当期におけるROEおよびROTEを算出するために行った会計上の資本に対する修正は、下表に詳述されている。

ROTEの算出：算出方法

期末（単位：百万ユーロ）	2024年 第4四半期	2023年 第4四半期	2024年	2023年
株主資本、グループ持分	70,256	65,975	70,256	65,975
超劣後債および永久劣後債	(10,526)	(9,095)	(10,526)	(9,095)
超劣後債および永久劣後債の保有者への未払利息、 発行時額面超過額償却額 ⁽¹⁾	(25)	(21)	(25)	(21)
転換準備金を除くその他の包括利益	757	636	757	636
配当準備金 ⁽²⁾	(1,740)	(995)	(1,740)	(995)
N-1に係る支払配当金	-	-	-	-
期末 ROE 資本	58,722	56,500	58,722	56,500
平均 ROE 資本	58,204	56,607	57,223	56,396
のれん平均 ⁽³⁾	(4,192)	(4,068)	(4,108)	(4,011)
平均無形資産	(2,883)	(3,188)	(2,921)	(3,143)
平均 ROTE 資本	51,129	49,351	50,194	49,242
グループ当期純利益	1,041	430	4,200	2,493
超劣後債および永久劣後債の保有者への支払利息および 未払利息、発行時額面超過額償却額	(199)	(215)	(720)	(759)
のれんの減損の取消し	-	-	-	338
調整後グループ当期純利益	842	215	3,480	2,073
ROTE	6.6%	1.7%	6.9%	4.2%

¹ 税引後利息

² 2024年の配当案に基づき、株主総会による通常の承認を条件とする。

³ 非支配持分に由来するのれんを除く。

RONE の算出：主力事業部門への平均配分資本（単位：百万ユーロ）

(単位：百万ユーロ)	2024 年	2023 年	増減	2024 年	2023 年	増減
	第 4 四半期	第 4 四半期		2024 年	2023 年	
フランス国内リテールバンキング・ プライベートバンキング・保険部門	15,731	15,445	+1.9%	15,634	15,454	+1.2%
グローバルバンキング・ インベスターソリューションズ部門	15,129	15,247	-0.8%	15,147	15,426	-1.8%
モビリティ・国際リテールバンキング・ 金融サービス部門	10,460	10,313	+1.4%	10,433	9,707	+7.5%
主力事業部門	41,320	41,006	+0.8%	41,214	40,587	+1.5%
コーポレートセンター	16,884	15,601	+8.2%	16,009	15,809	+1.3%
当グループ	58,204	56,607	+2.8%	57,223	56,396	+1.5%

6- 純資産および有形純資産

純資産および有形純資産は、当グループの 2024 年度「Universal Registration Document（年次報告書）」の 45 ページの財務情報の基準となる事項の記載にて定義されている。これらを算出するために使用した項目は以下のとおりである。

期末（単位：百万ユーロ）	2024 年	2023 年	2022 年
株主資本、グループ持分	70,256	65,975	66,970
超劣後債および永久劣後債	(10,526)	(9,095)	(10,017)
超劣後債および永久劣後債の利息、発行時額面超過額償却額 ⁽¹⁾	(25)	(21)	(24)
トレーディングポートフォリオ上で当グループが保有する当行株式の帳簿価額	8	36	67
純資産額	59,713	56,895	56,996
のれん ⁽²⁾	(4,207)	(4,008)	(3,652)
無形資産	(2,871)	(2,954)	(2,875)
有形純資産額	52,635	49,933	50,469
NAPS（1 株当たり純資産額）の算出に用いられる株数（単位：千株）⁽³⁾	796,498	796,244	801,147
1 株当たり純資産額（単位：ユーロ）	75.0	71.5	71.1
1 株当たり有形純資産額（単位：ユーロ）	66.1	62.7	63.0

7-1 株当たり利益（EPS）の算出

ソシエテ・ジェネラルが発表する 1 株当たり利益は、国際会計基準（IAS）第 33 号に定義されている規定に従って算出されている（ソシエテ・ジェネラルの 2024 年度「Universal Registration Document（年次報告書）」の 44 ページを参照のこと。）。1 株当たり利益を算出する際に行ったグループ当期純利益の修正は、ROE および ROTE を算出する際に行った修正再表示に対応するためである。

1 株当たり利益の算出については、下表に詳述されている。

平均株数（単位：千株）	2024 年	2023 年	2022 年
発行済株式	801,915	818,008	845,478
控除			
従業員に与えられたストックオプションおよび無償株式を補填するために配分された株式	4,402	6,802	6,252
その他の当行株式および自己株式	2,344	11,891	16,788
EPS 算出に用いられた株数⁽⁴⁾	795,169	799,315	822,437
グループ当期純利益（単位：百万ユーロ）	4,200	2,493	1,825
超劣後債および永久劣後債に係る利息（単位：百万ユーロ）	(720)	(759)	(596)
調整後グループ当期純利益（単位：百万ユーロ）	3,480	1,735	1,230
EPS（単位：ユーロ）	4.38	2.17	1.50

8 - ソシエテ・ジェネラル・グループの普通株式等 Tier1 資本は、適用ある CRR2/CRD5 規制に従い算出されている。全面適用の自己資本比率は、特に明記しない限り、当事業年度における配当控除後の当期利

¹ 税引後利息

² 非支配持分に由来するのれんを除く。

³ 考慮された株数は期末時点で発行済みの普通株式（ただし、自己株式および自社株買いを行った株式を除くが、トレーディング目的で当グループが保有する株式を含む。）の数である。（単位：千株）

⁴ 考慮された株数は期間中に発行済みの普通株式（ただし、自己株式および自社株買いを行った株式を除くが、トレーディング目的で当グループが保有する株式を含む。）の平均数である。

益に対する試算ベースの値である。特に明記しない限り、言及されている段階的適用の比率には、当事業年度における利益は含まれていない。レバレッジ比率も、自己資本比率と同じ根拠に基づき、段階的適用の比率を含み、適用ある CRR2/CRD5 規制に従い計算されている。

9 - 調達貸借対照表、預貸率

調達貸借対照表は、当グループの財務諸表に基づき、以下の2つのステップで作成する。

- 第一ステップ：貸借対照表の経済分析をやすくするため、財務諸表項目をより大きな項目に組み替える。主な組替えの内容は以下のとおりである。
 - 保険：保険に関連する会計項目を資産と負債の両方で1つにグループ化する。
 - 顧客貸出金：顧客に対する貸出金残高（引当金および評価損控除後、純リース債権残高および損益を通じて公正価値で測定される取引を含む。）を含み、IFRS 第9号が規定する条件に従い貸出金および債権に組み替えた金融資産（これらの残高は各々の元の項目に組み替えられている。）を除く。
 - ホールセール資金調達：銀行間取引負債および発行債券を含む。資金調達取引は、残存期間（1年を超えるか1年未満であるか）に基づいて中長期資金調達および短期資金調達に振り分けられている。フランス国内リテールバンキングのネットワークが発行した証券の持分（中長期資金調達に計上）、およびカウンターパーティと実施した一定の取引のうち顧客預金と同等のもの（従来は短期資金調達に計上）は顧客預金に組み替えられる。
 - 市場調達に相当する一部の取引は、顧客預金から控除され、短期資金調達に組み入れられる。
- 第二ステップ：保険子会社の貢献分を除外し、デリバティブ、現先取引、有価証券貸借、未払金および「中央銀行預り金」を差し引く。

当グループの預貸率は、調達貸借対照表に記載されている顧客貸出金を顧客預金で除して算出している。

注

- (1) 表および分析に含まれる数値の合計は、四捨五入の誤差により、公表されている数値とわずかに異なる場合がある。
- (2) 当四半期決算に関するすべての情報（特に、プレスリリース、ダウンロード可能なデータ、プレゼンテーションスライドおよび補足資料）は、ソシエテ・ジェネラルのホームページ（www.societegenerale.com）の「Investor」のセクションにおいて閲覧可能である。

ソシエテ・ジェネラル

ソシエテ・ジェネラルは、欧州最大手の金融機関の一つで、12万6,000人を超える従業員を擁し、世界65ヶ国で約2,500万のお客さまに金融サービスを提供しています。160年にわたり、法人、機関投資家および個人のお客さまに付加価値の高い多様なアドバイザリー・サービスと金融ソリューションを提供し、経済の発展を支えてきました。お客さまとの長きにわたる信頼関係、先進的な専門性、独創的なイノベーション、環境・社会・ガバナンス（ESG）における能力および優れた事業基盤はこれまで受け継がれてきたソシエテ・ジェネラルの企業文化の一部であり、こうした特性がすべてのステークホルダーにとって持続可能な価値を創造するという、当グループの最も重視する目標達成の下支えとなっています。

当グループは、相互に補完し合う3つの主力事業部門から構成されており、すべてのお客さまに環境・社会・ガバナンス（ESG）サービスを提供しています。

- **フランス国内リテールバンキング・プライベートバンキング・保険部門**：大手リテールバンクおよび保険事業、プレミアムなプライベートバンキング・サービスならびに大手デジタルバンクであるブルソバンクで構成されています。
- **グローバルバンキング・インベスターソリューションズ部門**：株式デリバティブ、ストラクチャードファイナンスおよび環境・社会・ガバナンス（ESG）においてグローバル市場における主導的地位にあり、お客さまのニーズに応じたソリューションを提供する最高水準のホールセールバンクです。
- **モビリティ・国際リテールバンキング・金融サービス部門**：安定した基盤をもつユニバーサルバンク（チェコ共和国、ルーマニア、アフリカ域内数ヶ国）および専門的な財務活動と持続可能なモビリティのグローバルプレイヤーである Ayvens（ALDリースプランの新ブランド）で構成されています。

ソシエテ・ジェネラルは、お客さまとともに持続可能なより良い未来を構築することを使命とし、環境変動とサステナビリティ全般における主導的パートナーになることを目指しています。当グループは、社会的責任投資指数の代表格であるダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インデックス（欧州）、FTSE4Good（世界および欧州）、ブルームバーグ男女平等指数、リフィニティブ・ダイバーシティ&インクルージョン・インデックス、Euronext Vigeo（欧州およびユーロ圏）、ストックス・グローバル・ESG・リーダーズ・インデックスおよび MSCI 低炭素リーダーズ指数（世界および欧州）の構成銘柄です。

詳しくは当グループのウェブサイト www.societegenerale.com をご覧ください。